



明日佳グループ
札幌宮の沢脳神経外科病院
千葉 昌彦 先生

1990年札幌医科大学卒業。
医学博士。日本脳神経外科学
会脳神経外科専門医

今回のドクターは

脳梗塞の前触れ「一過性脳虚血発作(TIA)」について 早期の検査・治療が大切です

予兆の初期症状に注意することで
脳卒中の発症を軽減

脳梗塞は脳卒中のうち最も多く、約7割を占めています。突然起こるもの、というイメージがあるかもしれませんが、脳出血やくも膜下出血に比べると、前触れがみられることが多い病気です。

脳梗塞の予兆は、一過性脳虚血発作（以下、TIA）といって、短くて数分、長くても30分程度で症状が治まってしまいます。一時的に脳の血管が詰まることが原因です。たとえすぐに症状が治まったとしても、脳血管が細くなっていたり、血栓ができやすくなっていたりする可能性があります。

TIAの症状はいろいろありますが、片側の上下肢脱力（片麻痺）、言葉が出ない（失語症）、ものが回らない（構音障害）が代表的な初期症状になります。また、片眼の急激な視力低下（一過性黒内障）や視界の半分が欠ける（半盲）症状もあります。

脳卒中発症の危険度は、TIA発症後90日以内は15〜20%と高率ですが、TIA発症平均1日後に治療を受けた場合、90日以内の大きな脳卒中発症率が約2%に留まり、治療が遅れて平均20日後に治療を受けた場合に比べて脳卒中発症率が80%軽減された、との報告もあります。

TIA後の脳梗塞発症の危険度予測の代表的な指標に「ABCD2スコア」があります。これは年齢（Age）、血圧（Blood pressure）、臨床症状（Clinical feature）、持続時間（Duration of symptoms）、糖尿病（Diabetes）の英語の頭文字からきています。このスコアが高く、TIAを繰り返したり、心房細動の合併例は速やかな病態評価が必要です。

脳梗塞の診断、治療は日々進歩していますが、今も昔も変わらないことは、病気の早期検査・治療です。TIAの症状と思われる時は、早めに脳、心臓、血液などの検査を受け、適切な治療を受けましょう。

あなたの街の
ドクターが
アドバイス

